

ハッピー 通信



本部 〒890-0032 鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL 099-282-7408 FAX099-296-1733 (事務局 TEL 099-283-6120)



子育てサポートどんぐり

NPO法人ハッピー アルバム



スクラム：秋祭り



スクラム：デイキャンプ



サポートセンター開：バーベキュー交流会&芋ほり



グループホームハッピー



スクラムの放課後の過ごし方・遊びを考える

==〇〇だけずるい！僕たちにも認めて！==

運動会も終わった10月のある日の放課後、「先生たちにお願ひがあるんだけど」と小学4年生のS君から紙切れをもらいました。

「ん、なにかな」と受け取るとその用紙には「スクラムにゲームを持ってきていいですか」と書かれており、スタッフが印鑑を押すように丸い印までつけてあります。「2年生だけがおもちゃを持ってくるのはずるい」とその申し立ての理由まで書かれていました。

ちょうど帰りの会の時間でもあり、「分かった！酒匂先生やみんなに聞いておくからね。」と応え「うん、まあ～あまり期待はしていないけどね。」とS君。

S君は地域の小学校支援級に通う自閉症スペクトラムの診断を受けている男児です。感情が高ぶると周囲が見えなくなり怒って飛び出すこともあります。

些細なことでも「なんでそんなことを言うんだよ！」と顔を真っ赤にし、涙を浮かべながら激怒するということがよくあります。

体を動かしたり、友だちと何かをするというより本を読んだり、DVDを見て一人で過ごすことの多いS君は興味のあることに関しては夢中になって調べたりするので物知りでもあります。戦車のこと、爆弾や武器のこと、毒のある生き物、独特の視点に関心がある子どもです。スタッフには「ねえ～これ知ってる！」と知識を披露するかのよう質問攻めということもよくあることです。

この秋、学校の運動会では運動は苦手な嫌だけど、集団の中でS君なりにしっかりと競技し落ち着いて参加している姿がありました。「頑張っていたねえ～」と声をかけると無言ではありましたが「見ていてくれたんだ」とまんざらでもなさそうな表情がありました。



== 問題提起 を受けて ==

そんなS君がスタッフ全員に意見書を出してきたということはどう受け止めればいいのか！と職員間でも話し合いになりました。

そもそもなぜ、2年生はゲームやおもちゃを持参してきているのか？
S君の生活の中でゲームや自分の好きなことができる時間はあるのか？
宿題が関係しているのか？



ゲームを持ってきて自由に遊ばせることは放課後の取り組みとしてはどうなのか・・・・。
時間を決めてするのはいいのではないか
ゲームやおもちゃが子どもたち間での関わりあうツールになるのであればいいのではないか
子どもたちの好きなことを提供する、工夫することが大切ではないか、等々。

職員間でもゲームを持ってきてもいいのでは！という一人の職員の声も出て、話し合いも今までの子どもたちへの放課後のあり方や一人ひとりの友だちとのつながり方を見直す機会になりました。

自分の意見をしっかり言える子どもに育ててほしいと願うが、実際にながいものにはまかれる主義、余計なことにはかかわりたくない、そんな風潮も感じられる時代の中、スクラムは自由にいろいろな意見や考え方が出せる職場になったなあ～・・・と一人の子どもの声を受けて対応できる良い集団になってきつつあるのかもしれない。

==子どもたちと考える==

S君が要望書（陳情書）を出してから約1週間後スタッフで検討した結果は、「いいと思うよ」が6人中1人、「お祭りの時とかならいいよ」で押印したスタッフが1人。そんな結果とその理由も添えてのあの紙をS君に渡すと「ええ～たった1人なの！」と不満そう、もういいよ！と投げやりな表情で宿題に向かっていました。このままでは困ったなあ～とその日の帰りの会の中でS君の行為を評価しながら、子どもたちにS君がこんなお願いをしてきましたがみんなはどう思いますか？と投げかけてみました。

2年生はなんでおもちゃやゲームを持ってくるの？と問われて「だってね、〇〇君が持ってきて遊ぶって言ったから！」と2年生のK君が発表、「壊れてしまうよ」とZ君「大事なものは持ってきたら、貸してあげないし、持ってくるのはいけないと思う」とMちゃん。「なんでダメなの？いいじゃん」とT君。自分の思いをストレートに発言する子どもたち。そんな仲間たちの意見を聞きたくないよ！もういいよ！と不愉快そうな表情のS君でした。子ども同士での話し合いや評価は子どもの心の核心に刺さるようです（はっきりとした結果まではあえて出さずに終わりました）。

「まあ～期待はしていなかったけどね！」と穏やかな顔で帰っていきました。物があふれ、物を大切に扱うという意識や必要も感じられなくなってきている時代です。

私たちの関係する子どもたちの中にはゲームやタブレットなどITを活用する方法で自由度の高まる子どもたちがいることは確かです。

しかし子ども時代、特に「小学生・遊び」という括りで考えると既成のものに遊ばれるより、あそびを生み出す力＝身体を、手指を使って、考える遊びを提供したいものだと思います。



只今、スクラムでは段ボールを使った工作あそびが大流行！

他児たちの段ボールでの遊びを横目で見ながら過ごしていたS君、つい最近スタッフに「ねえ、段ボール、俺も手伝おうか、作りたいものがあるんだ」と言い自分が作るための段ボールをしっかりと確保してから宿題に向かったといます。（元々工作活動が大好きなS君です。なかまへ 関心が育ってきていることを感じます。）

（文責：前





児童発達支援事業所

子育てサポートどんぐり

鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL:099-282-7408 FAX:099-296-1733



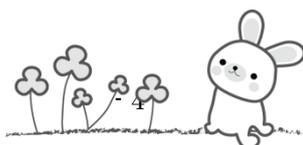
～自我とはなんだろう～どんぐりで大事にしたいこと～

この4月に新しいメンバーも加わりました。初めての環境に少しずつ慣れてきたのか子ども達の表情は4月当初よりも柔らかくなってきているようです。

さてどんぐりではみなさんに連絡帳を書いて頂いているのですがよくその中に“「イヤイヤ！」が多くなりました。”、“「自分で！」と手伝わせてくれなくなりました”などご家庭での様子が書かれていることがあります。「イヤイヤ期」とも言われますが、その時期は必ずやってくるものです。それは自我の芽生えでもあります。私たちがよく「自我」という言葉を使いますが、「自我」とは？「自分を意識する心の動き」とも言います。自我が芽生え始めた子どもは「僕はお父さんでも、お母さんでもない！親の一部ではない！僕は僕！」とアピールし始めます。だからこそその「イヤ」であり、自分で決めたいという気持ちには「僕ってすごいでしょ！」と自分の存在に誇りを持つようとしている事を感じます。自分のことを好きになる、自分に自信がもてるようになる、とても大事な時期でもあります。どんぐりでは、そんな場面に出会ったら、まずはその子の気持ちを受け止めます。尊重します。「やってみようかな、これだったらやってみてもいいかな」と子どもが自分で決めて取り組めるように、選択肢を準備したりしながら決して「我慢しなさい、いやでもやりなさい」にならないように気を付けています。

そうやって気持ちを受け止めてもらえる安心できる環境の中で、自我が豊かになっていくと考えています。そして大人との関係から友達同士の関係へと移行していく中で、自分の思いを受け止めてもらってきたからこそ、「イヤ！」「したくない！」という気持ちが他の子にもあるんだなとわかっていく、その気持ちをわかってあげられる力も育っていくと考えられます。友達同士で「イヤ」をぶつけ合い、葛藤して、もう知らない、ふん！とけんかをするそんな経験も人間関係を創るうえでは大切なことです。

この世の中、子育てがしにくくなってきたと言われます。「いやいや」となる場面が家以外で起きた場合、しつけができていないと思われるんじゃないか、言わせないようにするのがしつこい！と考えている方が残念ながら多い世の中になっているのか…世間が俗にいうお利口さんを求めているのです。今年度、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」に共通した項目「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」が盛り込まれました。「健康な心と体」「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活と関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命の尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝えあい」「豊かな感性と表現」の10項目です。簡単に言えば幼稚園、保育園は小学校にいくまでにこのような子になるようにと求められています。これらは大切なことだとは思いますが、できるようになることばかりに捉われてしまうのではないかと懸念もあります。できるようになることは大事ですが、できるまでの葛藤や心の動き、内面の部分がおざなりになってしまわないか。ただでさえゆっくり成長していこうとしている子どもたちが生きにくくなるのではないか。ゆっくり成長するのを世の中がゆるしてくれなくなるのではないか…。子どもの内面を大事にしたい。「いやいや」に隠された願いは何なのか。そんなことをみなさんと一緒にこれからも考えていける“子育てサポートどんぐり”でありたいなと思います。子ども達が生きやすい世の中とは…。まずは、子どもの思いを尊重していくことをこれからも大事にしていきたいです。(文責：宮島)



<私の実践日誌から～>

みんなドキドキ、不安もありま

五感を使って遊ぼう！

さて、5月の活動の話になりますが、私にとっては念願の遊びをすることができました。昨年も構想としてはありましたが、タイミングが悪く実施することができませんでした。でも今回は、どんぐりの奥スタッフに場所の提供と協力をもらい、半年前から予約して田植えが始まる前の広い田んぼで泥遊びをすることができました♪

なぜ、私が田んぼで泥遊びがしたかったかというと、砂水は公園等で触れ合う機会がありますが、土と泥というところでは身近に触れ合う機会が少なくなり、なかなか泥で遊ぶ経験、体験の場が減っているからです。ちまちま泥で遊ぶならなんとかできるかもしれませんが、身体いっぱい、そして五感をたくさん使って遊べるこの機会をとても楽しみにしていました。

さあ、泥遊び当日、いざ田んぼを目の前にしてみると、子ども達は神妙

慣れてくると自然に走り回ります

な顔つきです。少し水が入っている田んぼに足を踏み入れる表情は何ともいえない表情です。“いや～”“気持ち悪い”“ドキドキ”色んな感情が入り混じった表情にも見えました。最初はその感触を確かめるように慎重に田んぼの中を歩いていましたが、少しずつ慣れてきて、周りの様子も見られるようになってくると、自然に“あっちまでいってみよう！”“何か虫がいるかな～”と田んぼの中を走り回る子ども達。その頃には、神妙だった表情が、軽やかになり、水を多く投入しても土から泥に変化していく様をみて、感触を身体いっぱい楽しんで、泥の中に足を踏み入れる音を楽しんだり、土や草花の匂いを感じながら、それはそれはダイナミックに遊ぶことができました。実は私も初めての体験で、思い切りはしゃいでしまい、穴という穴に泥が入っている始末でした。シャワーが大変だったのは言うまでもありません。

今回、自然の偉大さを改めて感じるどころでした。自然という素材が子ども達の遊びになり、そして内面を刺激してくれるものでした。私たちが日々取り組んでいる実践の中身も子ども達の心をくすぐり、そして変化していく心の様を大事にしながら、いろんな経験、体験を重ねていきたいです。



慣れてくると自然に走り回ります

(文責：宮島)



泥んこ相撲！！
全身、泥まみれ♪



働く手ごたえ～実践便りより～

毎月発行しているサポートセンター開のお便りから、今年度の開の仲間達の働く姿をご紹介したいと思います。

今回は開を代表して、ベーカリー班とハッピー班の取り組みです。

= 仕事を通して認め合う関係 =

～ベーカリー班10月の実践便りより～



開のパンの代表作と言えば食パン、メロンパンとありますが次いで人気なのが『ウィンナーロール』。このウィンナーロールの成形を任されているのがKさん。丸めた生地を棒状に伸ばし、ウィンナーにクルクルと巻きつける姿はまさにパン職人さながらです。その姿を「すごいな～」「僕もやってみたいな～」と、憧れの眼差しで見ているNさん。それを見兼ねたスタッフが「Kさんはウィンナーロールが上手いからNさんにも教えてくれる？」と、お願いしました。Kさんは「いいよ」と、快く引き受けてくれました。これを機にウィンナーロールを作る日はKさんとNさんが一緒に成形する場面が多くなりました。取り組んできたなかでNさんの成形が上達していきました。ある日、自分が成形したウィンナーロールを「Kさん、どうかな？」という感じで見せるNさん。「…いいと思うよ」とKさんは答えてくれました。それを聞いて「やった～」と嬉しそうな表情のNさん。「Kさんが教えてくれたからNさんも成形がうまくっ



たよ。」「ありがとうKさん。」とスタッフが伝えると、少し照れ笑いをしているKさんでした。「成形」という仕事を通して仲間たちがお互いを認め合う良い関係ができてきているような場面でした。(文責：岩松)

= 俺たちの手仕事 =

～ハッピー班7月・9月の実践便りより～



初夏のハッピー班は、物販用の刺し子コースター制作に力を入れました。一枚完成させるのに、早い仲間は一時間ほどで完成させるのですが、じっくり取り組む仲間は5時間以上かけて満足いく物を制作しています。これまでも開マーケットで販売するコースターを作ってきていますが、やはり徐々に上手になってきていますし、糸結びや糸通しも、練習を重ねてできるようになってきました。

物販注文の納品に向けて「たくさん作る事が必要だったので、色合いや目の細かさにはこだわりながら作ってきて合計30枚。活動の前には



「販売用のコースターを作ります。お客さんが喜んでくれるようなきれいなコースターを作しましょう。」と確認し合って作ってきました。

これからは、コースターももちろんですが、刺し子を使った新しい商品も考えていき、また仲間達が「頑張ろう」と思えるように販売につなげていきたいと思っています。(文責：大石)



ぼくの見・わたしの見～話し合い、活動を創る～

昨年度から、仲間主体の活動作りをより意識し取り組みを重ねている開です。昨年度のディキャンプに始まり、忘年会、販売会…と様々な行事を仲間たち、スタッフが共に話し合い創ってきました。そんな取り組みの中で感じたことを今回はご紹介したいと思います。



話し合いって、どうやって進め

たらいいのか？ちょっと前の私は話し合い、活動を創っていくというイメージが曖昧な状況でした。まず、みんなが話し合いに集まってくれるのか…どのように話していけばいいのだろうか…伝わるのか、聞いてくれるのか…意見は出るのだろうか…と、不安と難しさばかりを抱いていたように思います。

話し合いはお昼休みが中心となるため、休憩するか、参加するかは仲間自身の判断に任せています。お昼休み、いつも通りに過ごしたいんじゃないかなあ…と思ったのですが、声がかかり仲間が動き始めるとみんなと同じく～と足が向かい、手が止まり、と思った以上に多くの仲間が集合。何が始まるのかと注目する雰囲気もあり、進行するスタッフも身の引き締まる思いで毎回スタートします。いつ、どんなメンバーで、おおよそどんな



目的の活動を伝えます。そして、活動に向けて具体的な事を仲間たちと話し合っていきます。何がしたいか、何が食べたいか、どこに行きたいか、自分はどのグループがいいか、何の役をしたいか等々。自分の意見をことばで表現する仲間、自分を表現しようと身振り手振りで懸命に伝える仲間、このように積極的に表現する仲間もいれば、ちょっと雰囲気を確かめて話題をつかんでからという仲間もいます。私が思っていた以上に、仲間たちは話題を自分に引き寄せて感じ、考えようとアンテナを張りながら参加していることが伝わってくる姿なのでした。



初めの頃は自分の考えたことを発信したいけれど上手く伝えられるかな…と尻込みしていた仲間も、この1、2年の中で発言することに自信をつけ馴染んできた姿に頼もしさを感じます。場の

共有をしながら話し合いの雰囲気をまずは感じていた仲間も、スタッフの代弁を通して意見を発信し写真を見比べ関心を寄せることを通して自分の思いを表現している今です。私達スタッフも含めて、話し合い、活動を創っていくという事が馴染んできた開ですが、まだまだ仲間達の意見をどのように吸い上げ、まとめていくのか、仲間たちが自分の思いを膨らませ、考えるためにどんな情報の伝え方が必要か等模索中です。この取り組みを通して、全体での話し合い場面だけではなく、日々の活動の中でも仲間と話し合い動いていく事が増えたように感じます。あたりまえの事ですが、社会の中でも意思決定支援がさげられ、仲間達自身の思いを元に日々が創られていく事を大事にする世の中へと変化してきています。まず、開の中から変化を…そしてこの取り組みが社会の変化にも繋がっていく一歩になることをねがい取り組みを続けていきたいとしたいと思います。(文責：児玉)





< 3年目に突入して振り返り、

あらためて仲間たちの自立した生活について考える>

平成28年11月に開所した共同生活援助事業ですが、今年の11月で3年目に入ります。入居する仲間たちにとっては親御さんのもとを離れて暮らす場、職員にとっては日中活動ではなく、日々の生活を支援していく場として開所当初はお互い手さぐりで、仲間たちひとりひとりの言動にこうなのかな、どうすればいいのかな、と考えとまどいご家庭や日中活動のスタッフにも話を聞きながら少しずつでもグループホームでの生活のリズムを整えていこうとしてきました。まずはホームでの生活が苦痛にならないように様子を見ながら徐々に本人たちの生活スタイルを整えていけたらいい、との考えから週末や祝日は帰省し、月～金をホームで生活するようになってきました。



短期入所で自宅を離れての生活トレーニングをしてきた仲間たちでもありましたが、1泊、2泊の短期入所と違って新しい生活の場なので今までの経験の積み重ねが役に立ちつつも気持ちの持ちようが違います。仲間たちははじめこそ緊張感や意気込みもあってなのか新しい環境での生活を楽しんでいる様子も見え、職員一同ホッとしていましたが、3か月も経つとホームじゃなくて家(実家)に帰りたい!!という気持ちをぶつけてくる仲間も出てきました。はじめ緊張しつつもちょっと緊張が解けると自分のいまの状況が見えてきて不安がでてきたように見えました。“なんで来なくてはいけないの?” “いつまでここ(グループホーム)にいればいいの?” という思いの表れであり、自分たちが生活していく場所なのだという認識ができてづらいからだと思います。

そこでまずは集団生活での楽しい経験を積んでいくこと、仲間同士、職員との関係づくりをしていくこと、支援や流れで生活させられるのではなく、自分たちが主体性をもって生活できるように仲間の意思を尊重してそれに寄り添って支援をすることを大事にしながら支援してきました。

そのようなスタートでしたが1回目の春を迎え、2回目の春を迎えと月日が経ちグループホームでの流れもわかり、職員とも徐々に信頼関係が築かれ、ときどき気持ちが揺れ動きつつもホームでの生活を楽しんでいる姿も見られるようになってきました。

仲間たちの生活がどのようなものであれば楽しみを感じられるものであるか、その一つに張り合いを持つことが大事だと感じています。毎日の生活の中のどこかの場面で気持ちが生き生きと動く主体的な時間が味わえるということが「生活に張りを持つ」ということだと思います。それぞれに充足感が持てることや場面は違います。また、自分でできることと難しいことも違います。たとえ自分だけでできなくても人を頼ることができてそれがかなえられたら喜びに繋がります。自分の意思でさまざまな選択をしながら生活することができれば、それは『自立』した生活でもあると思います。自分でできることはしてもらいつつちょっとお手伝いすれ



ばできるようなことをそれぞれに発見し、本人の喜びに繋げることが私たち職員の仕事であり、それが生活に張りをもてることにもなり、ホームでの生活がより楽しみをもったのぞめるものになると考えます。

現在はグループホーム入居者5名、短期入所定員3名で多い日は8人、少ない日は3、4人で今日にはぎやかだね～ 今日にはちょっと静かすぎてさびしいね、とその日その日で雰囲気もかわりますが、グループホーム入居者は3年目にしていだぶ落ち着いた姿が見られています。いまが3回目のスタートライン。ここから4年目に向けて仲間たちが張り合いを持って笑顔で生活できるグループホームとして、仲間と共に生活を創っていきたいと思います。（文責：奥田）



<生活のうれしいひとコマ>～誕生会～



7月に2人、9月に1人誕生日を迎えられた方がいたので、グループホームで誕生会をしました。誕生会はいつものグループホームの献立とは違い「誕生会何が食べたい??」とアンケートを取ったリクエストディナーとなります。仲間たちのリクエストで7月はミートスパゲティ、9月はハンバーグでした。いつもの夕食メニューとはまた雰囲気も違い、「誕生日おめでとう!」「おいしいね!」「今度僕の誕生日にはカツカレーにしようかな!」などと仲間たちも自然と会話も進みます。

リクエストディナーを楽しんだ後はみんなお待ちかねの誕生日ケーキの登場!!「おいしそうー!」と今日一番の歓声があがります。おいしそうなケーキを目の前にさっそくケーキを食べたい仲間たちもいますが……「まずはバースデーソングを歌って、ろうそくの火を消してからにしよう!」と提案すると「そうだよね～」となり電気を消してくれる仲間の姿も。「パッピーバースデートゥーユー♪ハッピーバースデートゥーユー♪♪」とスタッフが歌い始めると仲間たちも合わせて歌い、手拍子してくれます。祝われている仲間は少し恥ずかしさや、照れもあったようですが、その何倍も、何十倍もの嬉しさがあったようで、顔をほころばせながらろうそくの火を消しているのが印象的でした。

家族で誕生日を祝ってもらえるのももちろん嬉しいと思います。ですが、日頃からグループホームで一緒に生活をし、一緒に作業に取り組んでいる、気心知れた仲間たちからの祝福は何よりも喜びだったようです。「また誕生会したい!」と仲間たちからも話が出ていました。思い出に残るイベントの1つになったようです。次の誕生会は2月です。今度は仲間たちと一緒にリビングの飾り付けをしたりして、さらに楽しい雰囲気で誕生会ができればと思うことでした。（文責：西田）



～ショートステイの見学・契約のご相談はこちらまで!～

利用対象：障害支援区分1以上の方が利用可能です。

障害福祉サービス受給者証が必要です。

一日2名まで学齢児、成人の方共に受け入れ可能です。

必要に応じて送迎等も行っています。

グループホームハッピー

TEL：099-295-4312

FAX：099-295-4315

担当：西田

親の会だより

★サポートセンター開★

グループホームに入所して3年目に入りました。今は月曜の朝にサポートセンター開に通所して、そのままホームに帰って生活し家には水曜日に帰って来ています。また金曜日にホームに帰り家には土曜日に帰って来る生活をしている娘がいます。ホームの仲間達やスタッフと一緒に楽しく生活が送れるように、親は子離れ出来る日がいつだろうかと思いつつも、いつも生き生きとした日々を願っています。

★スクラム★

今年初めて行われたスクラム秋祭りでは、親たちが和気あいあいと豚汁&おにぎりを作りました。ゲームや演奏会など親子でお祭りを楽しみました。

11月の鹿児島市わくわく福祉交流フェアには、今年も親の会から模擬店を出店し、子ども達も手伝いに来てくれました。お母さん同士が交流を深める場にもなり楽しい一日でした。

今後もいろいろな形で子ども達をサポートしていけたらと思います。

★子育てサポートどんぐり★

今年度も子育てサポートどんぐりでは毎日さまざまな活動をして頂きました。砂水遊び、音楽でのふれあい遊び、さくらんぼ体操。わんぱく団ではお料理まで。そしてお泊り保育。どんぐりでの様子を毎日写真で見ると日々お兄ちゃんになってきているなど感じます。

これもどんぐりスタッフの皆様のお陰です。ありがとうございます。まだまだいろいろな行事があります。親の会として子ども達の笑顔がたくさん見れるよう精一杯努めていきたいと思っておりますので、保護者の皆様よろしくご協力をお願いします。

☆ 賛助会員を募集しています ☆

NPO 法人ハッピーでは地域の中でも誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進を図ります。私たちの取り組みにご理解くださり、賛同して下さる方を広く募集しています。皆様のご理解とご支援の下、地域に根ざした福祉の向上に努めます。どうぞ宜しくお願い致します。詳しくは本部までお問い合わせください。

賛助会員	個人	一口	2000円
	団体	一口	10000円 (何口でも可)

【入会方法】 振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別(個人/団体)をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

<口座名義> トクテイヒエイリカツドウホウジンハッピー ダイヒョウシャ ヤマサキヒロノブ

<口座番号> 鹿児島銀行 西陵支店 普通預金 口座番号 545722

お問い合わせ先 NPO 法人ハッピー 099-283-6120 (担当: 有村)



ご支援・ご協力ありがとうございます!